

# TRY・アングル



## 今年一年をふいかえって



本校が東広島市の学校として初めてコミュニティ・スクールに指定されてから、一年が終わろうとしています。今年度は、地域の課題（少子高齢化）に対し、「学校支援ボランティア制度の実施」と「地域貢献プロジェクトの展開」を中心的活動に据えて、学校・保護者・地域が協働して活動しました。今回の通信では、前回に続き、どのような取組・実践をしたのかについてお伝えします。

### コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんが共に知恵を出し合い、協働して子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。地域に開かれ、地域に支えられた、信頼される学校づくりをすすめようとするものです。



## 具体的な取組 1 ～学校支援ボランティア～

### ○ジャガイモ栽培ボランティア 3年生（学習支援ボランティア）

夏休みに行った社会科研究発表会で、子どもたちは、安芸津町木谷地区のじゃがいもが“赤じゃが”として町の特産物になっていることを知りました。そこで、風早でも“赤じゃが”を作ることができるのではないかと考え、育てることにしました。ところが、育て方の具体的なイメージがわかりません。そこで、じゃがいもの栽培の仕方を詳しい方に聞きたいとの思いから、寿大学の方をお願いして、畑の整地や土づくり、たねいもの植え方、その後の世話や収穫の仕方について3回にわたって教えていただきました。

子どもたちから「あ！わたしの班の見守り隊の人がいる！嬉しい。」といった声があがりました。子どもたちは、地域には自分たちの疑問に詳しく答え、力を貸してくださる人がたくさんいることを知り、感謝のきもちを強くもちました。ボランティアの方からも、「収穫した時の葉を持って帰る子や、たねいもやいものつき方を見る子がいて、みんな研究熱心でした。私たちも一緒に勉強して、楽しくすごせました。」との感想をいただきました。



### ○給食ボランティア 1～3年生（学習支援ボランティア）

寿大学と風早女性会の方にご協力いただき、給食準備時間での児童の配膳支援や、食事の際のマナーや食の知識の指導などを行っていただきました。子どもたちと一緒に給食を食べる中で、元気な挨拶を褒めていただいたり、学習発表会の感想をお話いただいたりしたことが、子どもたちの励みになりました。

また、嫌いな食べ物をなかなか食べられない子どもたちに優しく声をかけていただき、頑張っって食べきる姿も見られました。第一回の10/15から、3/11まで毎月2～3回来ていただきました。子どもたちはボランティアの方々に親しみを感じて、交流を楽しみにしていたようです。



### ○しめ縄づくりボランティア(社会福祉協議会・ゆうゆうクラブ)

特別支援学級では、ものづくりをテーマにした生活単元学習の一つとして、餅つき・しめ縄などの昔から伝わる行事の体験活動を取り入れています。「しめ縄づくり」では、社会福祉協議会所属ゆうゆうくらぶの方に、毎年、ご協力いただいています。作る際には、子ども一人ずつにボランティアの方がついて教えていただいています。1年生のときから続けている子は、体験を繰り返すことで上手になっており、ボランティアの方からも「作業が早く丁寧にできるようになってきたね。」と褒められ、大きな自信をつけています。



### ○生け花ボランティア(環境支援ボランティア)

みずき会の方が来校してくださり、季節の花を生けてくださっています。卒業式前日、演台の花や、玄関、6年生教室などにすばらしいアレンジを作って飾っていただきました。卒業式当日も、花の様子を見に来てくださり、華やかな卒業式になりました。



### ○登下校見守りボランティア(安全支援ボランティア)

子どもたちが、毎日、安全に登下校できるように、見守り活動を行ってくださっています。保護者からは「毎日の登下校に親がついて行くことは難しいです。集合場所での挨拶から始まり、一緒に歩きながらの見守りをさせていただくことで、安心して子どもを送り出すことができている。いつもありがとうございます。」との感想をいただいています。また、子どもからは「登校中に転んでけがをしたとき、おぶってくれて、けがの手当てをしてくださったのが嬉しかったです。」との声も上がっています。見守り隊の方との交流で、豊かな心が育っています。

